



ひかりのこ

2020年度 **10月号**

日本キリスト教団
名古屋新生教会 教会学校だより
 名古屋市西区天神山3-7 Tel.052-531-1820
 HP: <http://www.13.plala.or.jp/n-sinsei-church/>

今年は夏の後半から初秋にかけて、“猛烈な”台風が次々とやって来て、各地で大雨をもたらしました。ようやく秋らしさが増してきましたね。よく「〇〇の秋」と言います。スポーツ、食欲、芸術、読書、勉強…みなさんはまず初めに何を思いつきますか？今年例年とは違って、学校や幼稚園では行事などが縮小や中止となり少し寂しいですが、何をやるにもふさわしい季節です。自分にとっての新たな挑戦をしてみましょう！

10月以降の教会学校

○教会学校礼拝・こどもれいはい

これまでどおり、通常の時間帯で守ります。

礼拝出席の際には引き続きマスク着用・手指の消毒など、感染予防にご協力をお願いします。

○分級

小5～中高生の「分級Ⅱ」のみ再開します。

- ・礼拝後、短い時間（15分程度）で交わりのときを持ちます。
- ・密閉、密接を避けるため、礼拝堂の後ろの場所で行います。
- ・内容は会話を伴いますが、その都度判断し、状況により中止することもあります。
- ・あくまでも参加は自由です。礼拝のみ出席でも構いません。

小1～小4の「分級Ⅰ」は、もうしばらく様子を見て始めます。

今月の礼拝 単元7: 族長たちの時代

月日	週題	聖書箇所	教会学校礼拝 (小5～中高生) 9:00～9:30	分級Ⅰ (小1～小4) 分級Ⅱ (小5～中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小4) 10:00～10:20
10月4日	アブラムの旅立ち	創世記 11:27-12:9	武岡路実	分級Ⅱのみ 再開します。	武岡 基
10月11日	イサクをささげる	創世記 22:1-19	安達正樹牧師		安達正樹牧師
10月18日	エサウとヤコブ	創世記 25:19-34、 27:1-28:5	林 小夜子	分級Ⅰは もうしばらく お休みです。	安達いづみ
10月25日	ヤコブの逃避行	創世記 28:10-22	武岡 基		武岡路実

今月の聖句

主の企てはとこしえに立ち 御心の計らいは代々に続く。

(詩編 33:11)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 32 (すべてのひとよ)

讃美歌21…46

今月の聖句で「主の企て」とありますが、「企て」とは何となく悪いことを連想させられます。漢字の成り立ちを調べてみると、「人と、止(あしあと)とから成る。人がかかとを上げて、つま先立ちして遠くを望むことから。『角川新字源 改訂新版』より」とあり、背伸びをしている様子を表しているともいわれます。つまり、物事のさらに先を見据えた計画であり、ワクワクすることでもあります。確かに「企画」「企業」など熟語では良い意味で使われているものばかりですね。今月の礼拝で学ぶ旧約聖書の物語の登場人物(族長)だけでなく、私たちすべてに神さまのワクワクするご計画があり、時代を超えて将来に渡って続いているのです。

フランス東部ブルゴーニュ地方の小さな村テゼにキリスト教の教派(プロテスタント、カトリック、東方正教会)を超えた祈りの共同体があります。改革派の牧師の子としてスイスに生まれたブラザー・ロジェさん(1915-2005)は、キリスト教の人たち同士が争っている姿に心が痛み、教派を超えた和解を生きる共同体を作りたいという希望を持ち、故郷スイスを離れてこの村に移り住み、祈りと労働の生活を始めました。1940年、第二次世界大戦中のことでした。彼はユダヤ人難民を匿い、戦争孤児たちを迎え入れました。1943年に彼は牧師となり、1949年には志を同じくする7人のブラザーたちが加わり、テゼ共同体が正式に発足しました。現在、テゼ共同体ではブラザーたちがキリスト者の和解と一致を目指して活動しています。世界各国から若者を中心に一週間の短期滞在プログラムも設けられています。毎日、朝、昼、夕の3度、和解の教会と呼ばれる礼拝堂に集い、歌と聖書朗読、とりなしの祈り、そして、長い沈黙からなる祈りの時間がもたれています。その祈りで歌われる歌はカノン(輪唱)や、短いもので、それらを繰り返して歌うことで祈りへと導く役割を持っています。賛美では伝統的な典礼文(ラテン語)を歌詞としてよく用いています。ラテン語をキリスト者共通の祈りの言葉として考え、いろいろな国の人たちと共に守る礼拝の際にラテン語の歌詞で歌うことも、たいへん意義深いことでしょう。

作曲はフランスの音楽家で作曲家のジャック・ベルティエさん(1923-94)です。彼はパリのイグナチオ教会のオルガニストとしても奉仕していました。彼は1975年から、テゼ共同体の礼拝や祈りの集いのために数多くの賛美歌を作り続け、この歌もその一つです。歌詞は、詩編117編1節「すべての民よ、主をほめたたえよ。」からつけられました。テゼ共同体の賛美は短く、何度も繰り返して歌うのが特徴的です。教会学校の礼拝では2回繰り返して、1回目は日本語の歌詞で、2回目はラテン語の歌詞で歌いましょう。

ラテン語の歌詞を直訳すると、
ラウダテ ほ たた オムネス ゲンテス
 Laudate (誉め讃えよ) omnes (すべての) gentes (人々よ)
ラウダテ ほ たた ドミニム
 Laudate (誉め讃えよ) Dominum (神さまを) となります。

Laudateの「ダ」の「.」(付点四分音符)で、つい区切りたくなりますが、「ラウダーテ」で一つの単語ですから「テ」まで区切らずに歌いましょう。そのためには、歌い出しが3拍目(「ダ」が1拍目)であることを意識して、「.」(八分休符)まで一息で歌いましょう。ラテン語の歌詞を覚え、いつか他の国の人と共に歌える日が来るかもしれない、そう思うと何だかワクワクしますね。



おたんじょうびおめでとう🎂

10月生まれのお友だち